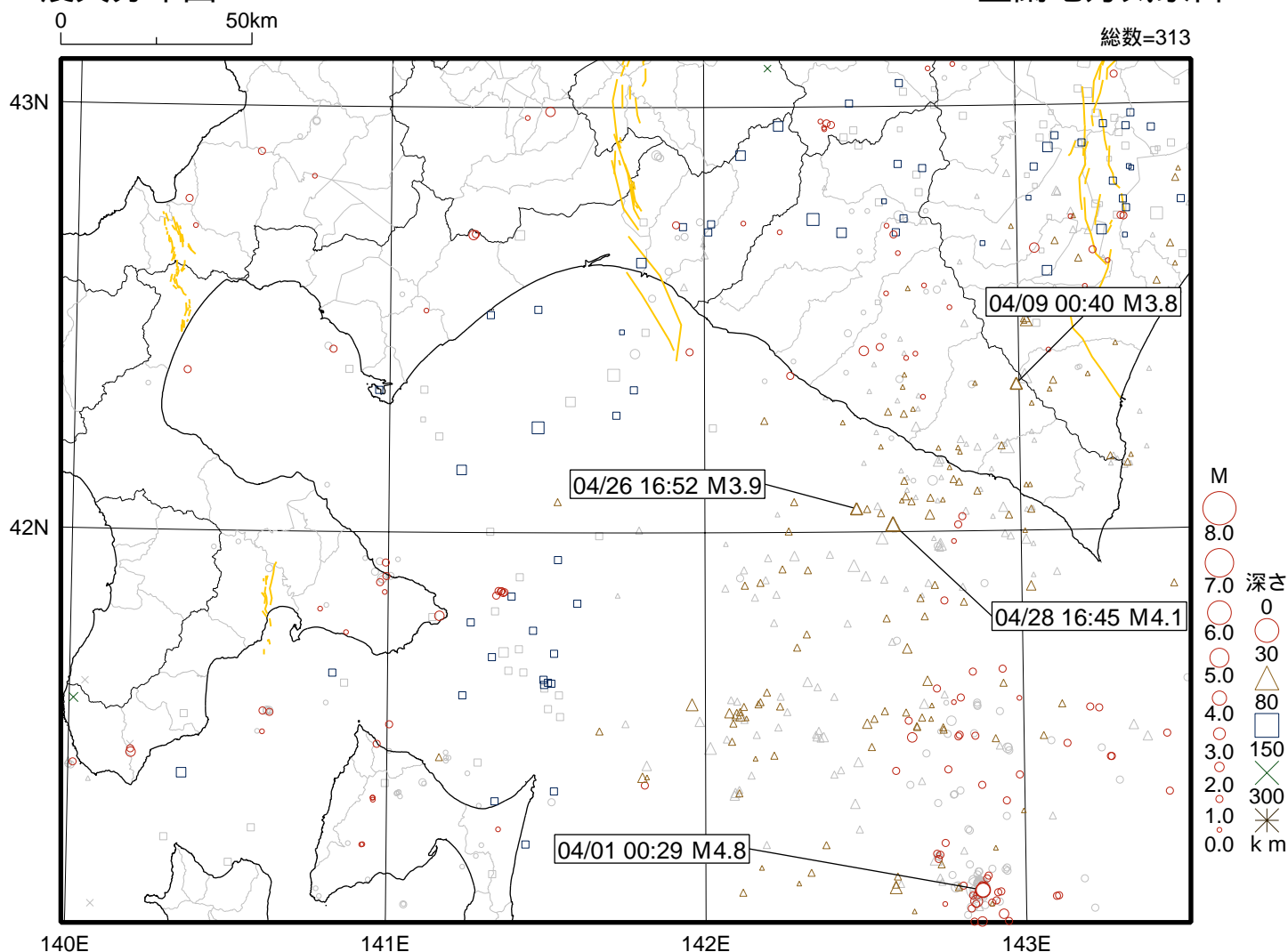


# 胆振・日高地方の地震活動図

2023年4月1日～2023年4月30日

震央分布図

室蘭地方気象台



## 地震概況（2023年4月）

この期間、胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回（3月は6回）でした（「胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

1日00時29分、青森県東方沖の地震（M4.8、深さ28km）により、様似町で震度2、浦河町で震度1を観測しました。

9日00時40分、日高地方東部の地震（M3.8、深さ55km）により、新ひだか町、浦河町で震度1を観測しました。

12日00時38分、十勝沖の地震（M4.3、深さ99km、震央分布図の範囲外）により、浦河町、えりも町で震度1を観測しました。

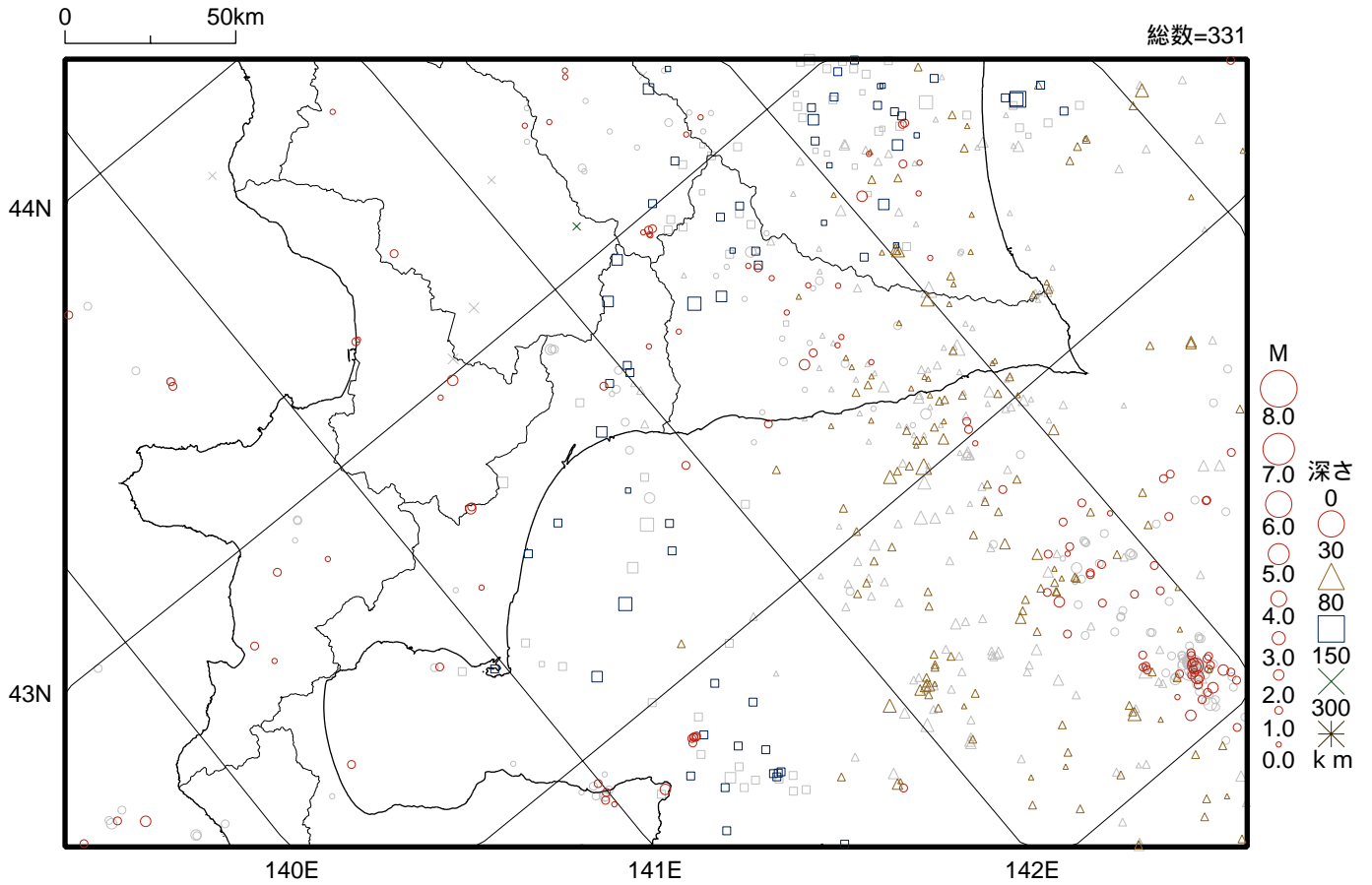
26日16時52分、浦河沖の地震（M3.9、深さ68km）により、厚真町、安平町、新ひだか町、浦河町で震度1を観測しました。

28日16時45分、浦河沖の地震（M4.1、深さ64km）により、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町で震度1を観測しました。

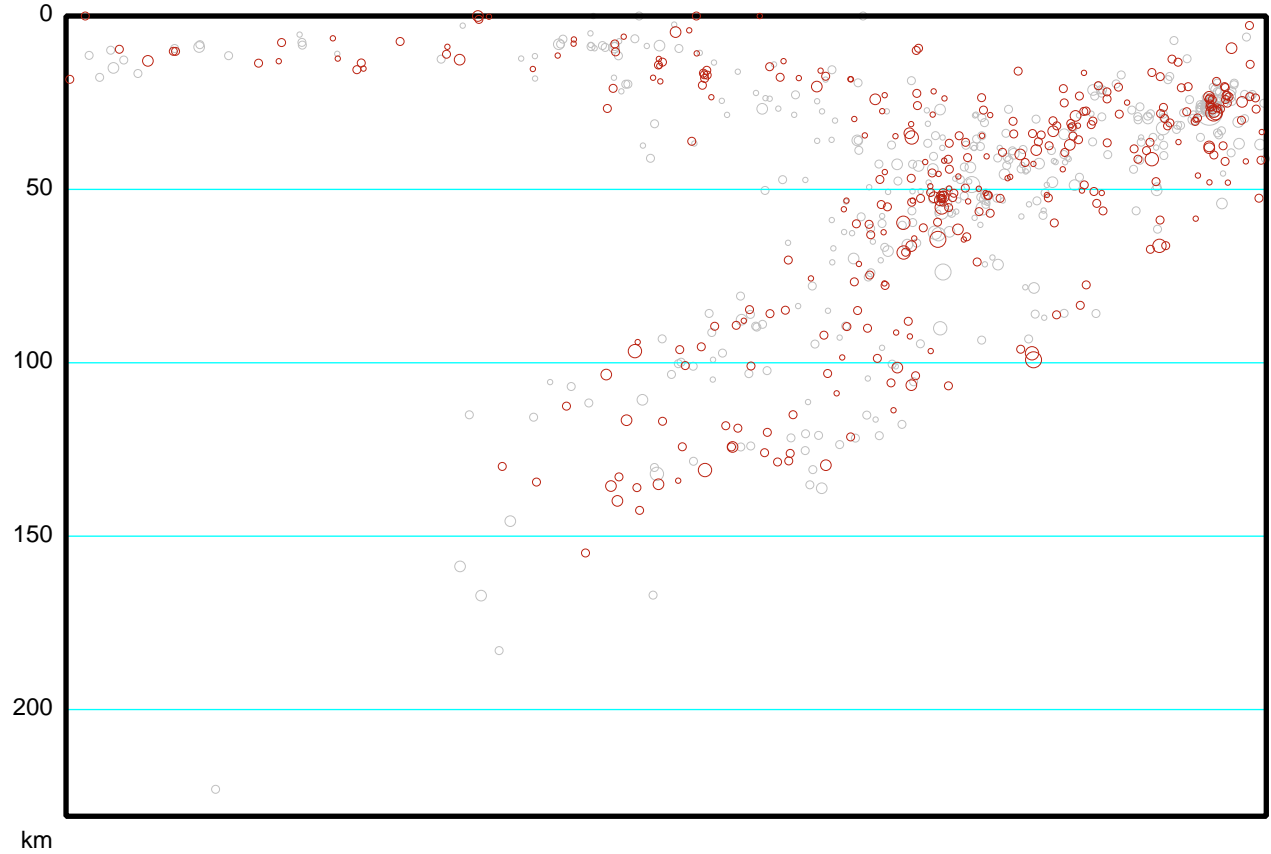
この活動図は、室蘭地方気象台のホームページ（<https://www.data.jma.go.jp/muroran/>）に掲載しています。  
この資料に関する問い合わせ先 室蘭地方気象台 TEL 0143-22-4249

2023年4月1日 ~ 2023年4月30日

震央分布図



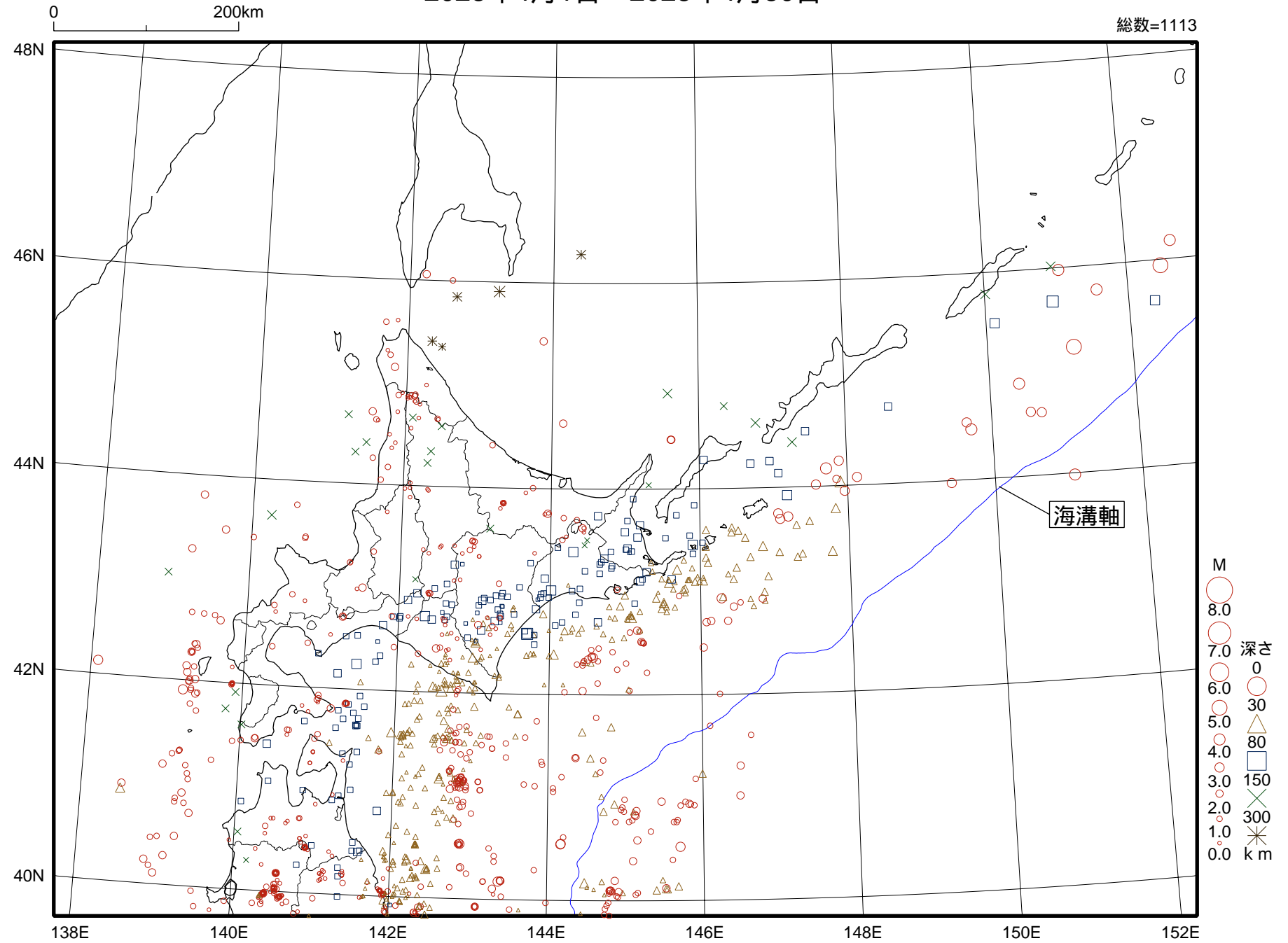
断面図



# 北海道の地震活動図

2023年4月1日 ~ 2023年4月30日

震央分布図



## 胆振・日高地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2023年4月)

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (km)	規模 (M)
2023年 4月 1日 日高地方	00時29分 震度 2 震度 1	青森県東方沖 様似町栄町* (15) 浦河町潮見 (08)	41° 09.3 N	142° 51.9 E	28 km	M4.8
2023年 4月 9日 日高地方	00時40分 震度 1	日高地方東部 新ひだか町静内山手町 (06) 浦河町潮見 (08) 浦河町築地* (08)	42° 20.7 N	142° 59.4 E	55 km	M3.8
2023年 4月12日 日高地方	00時38分 震度 1	十勝沖 浦河町潮見 (06) えりも町目黒* (05)	42° 35.2 N	143° 42.1 E	99 km	M4.3
2023年 4月26日 胆振地方 日高地方	16時52分 震度 1 震度 1	浦河沖 厚真町鹿沼 (05) 新ひだか町静内山手町 (08) 新ひだか町三石旭町* (13)	42° 03.2 N	142° 28.8 E	68 km	M3.9
2023年 4月28日 日高地方	16時45分 震度 1	浦河沖 新ひだか町静内山手町 (06) 新ひだか町三石旭町* (10) 様似町栄町* (07) 新ひだか町静内御幸町* (07) 浦河町野深 (12) 浦河町潮見 (14) 浦河町築地* (06) えりも町目黒* (06) えりも町えりも岬* (08)	42° 01.0 N	142° 35.7 E	64 km	M4.1

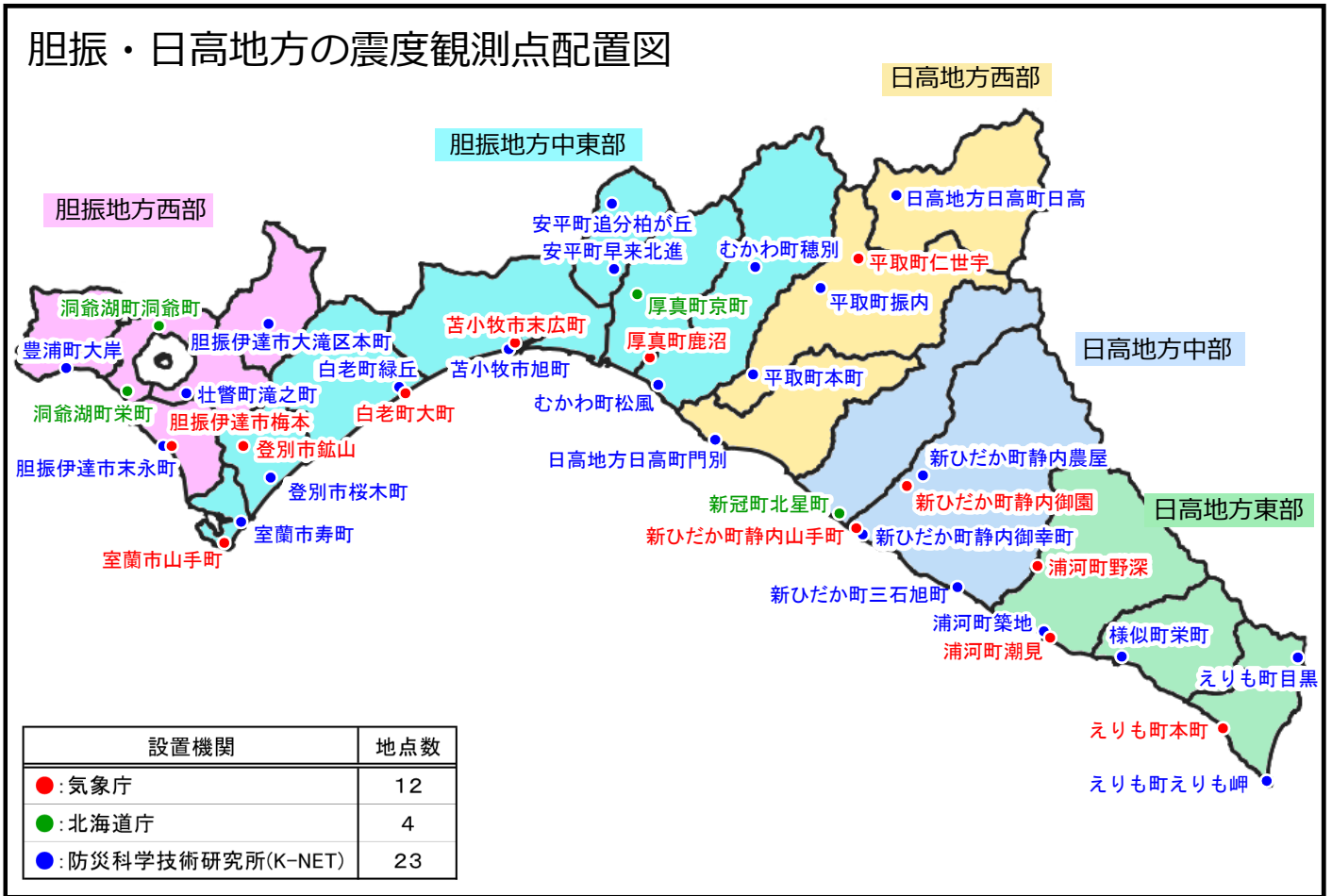
\*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

( )内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

### 計測震度と震度階級の関係

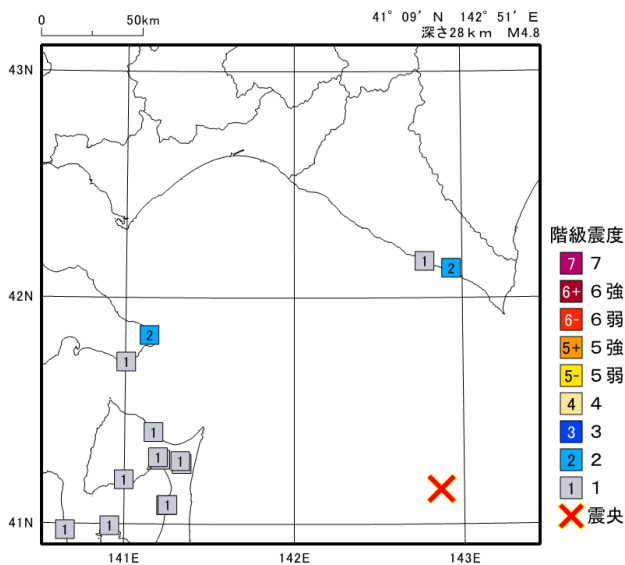
計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

# 胆振・日高地方の震度観測点配置図

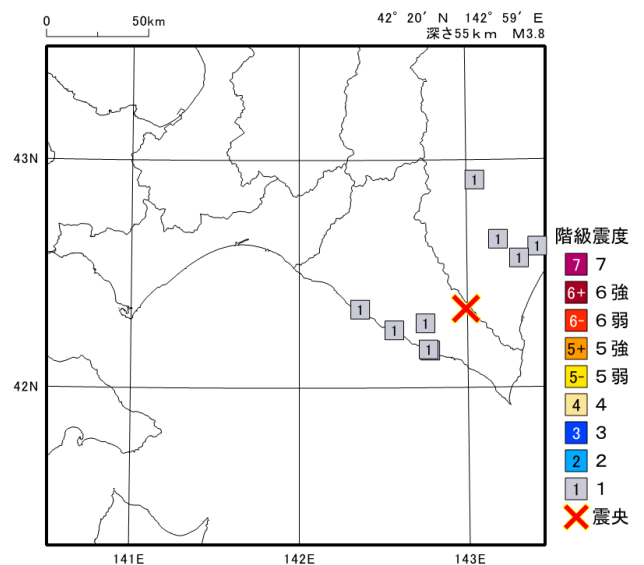


## 震度分布図（胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震）

2023年 4月 1日00時29分 青森県東方沖の地震の震度分布図

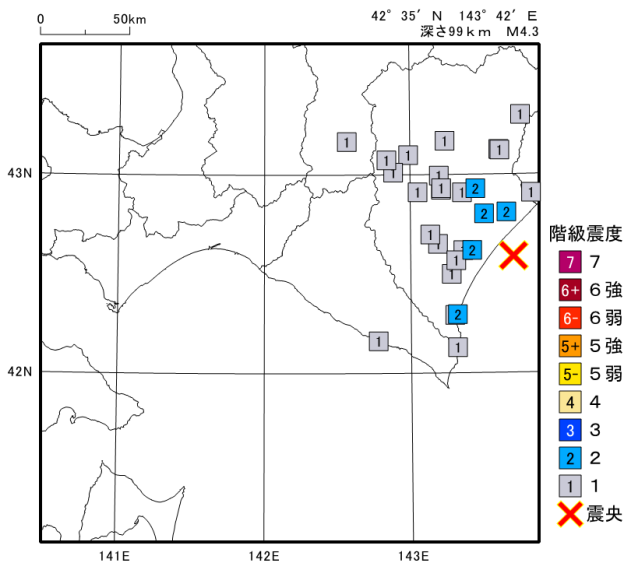


2023年 4月 9日00時40分 日高地方東部の地震の震度分布図

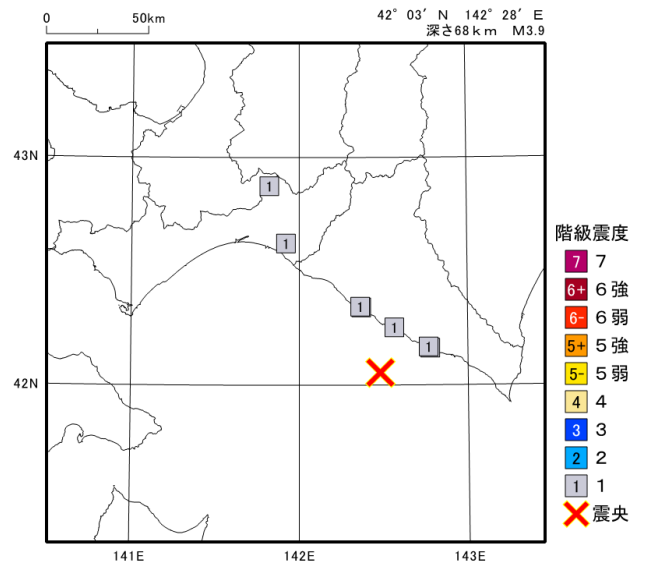


# 震度分布図（胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震）

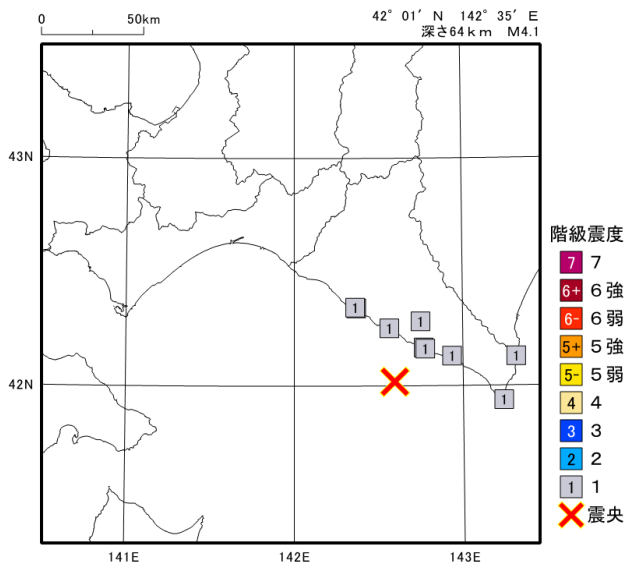
2023年 4月12日00時38分 十勝沖の地震の震度分布図



2023年 4月26日16時52分 浦河沖の地震の震度分布図



2023年 4月28日16時45分 浦河沖の地震の震度分布図



## 本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

## 【防災メモ】

# ～地震活動図利用の手引き～

「胆振・日高地方の地震活動図」は、胆振・日高地方とその周辺で発生した地震の状況を月（または年）ごとにとりまとめた資料で、地震活動や震度の観測状況の把握、顕著な地震活動に関する情報の補完を主な目的としています。月間の資料は毎月10日頃、年間の資料は毎年1月に発表しています。

## 1. 構成について

地震活動図は、「震央分布図」、「地震概況」、「断面図」、「北海道の震央分布図」、「震度1以上を観測した地震の表」、「震度分布図」、「主な地震の解説」、「防災メモ」で構成しています。

## 2. 各資料の見方

### (1) 震央分布図

「震央分布図」は、当該期間中に発生し、震源が求めた地震の震央を地図上に記号で表示した図です(図1)。記号の種類で震源の深さを、大きさで地震の規模を示すマグニチュード(以下、Mと記載)をそれぞれ表します。震央分布図内の地震で以下の基準①を満たすものには、その発生日時、Mを記載した吹き出しをつけています。

なお、地図上のオレンジ色の線は、地震調査研究推進本部による主要活断層を表します。また、過去の地震活動と比較するため、前3ヶ月間の震央の記号を灰色で表示しています。これらを踏まえ、地震活動の活発さや、地震が珍しい場所で発生しているかなどに注目してご覧ください。

### 【基準①】

- ア 胆振・日高地方の沿岸に大津波警報・津波警報・津波注意報を発表
- イ 胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測
- ウ 上記以外で注目すべき地震活動

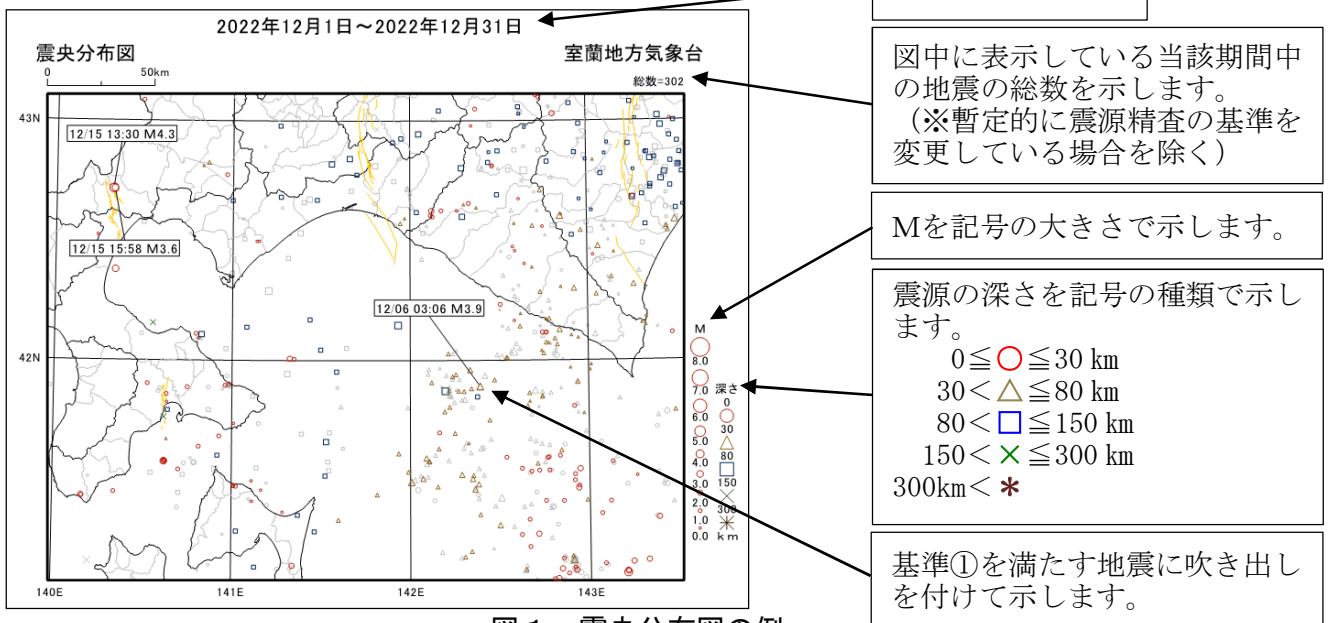


図1 震央分布図の例

※震度1に満たない(体に感じない)微小な地震も含め多数発生している様子がわかります。



## (2) 地震概況

胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震の回数、及び基準①を満たす地震の概要（発生日時、震央地名（地震の発生した地域名）、M、深さ、胆振・日高地方で観測した震度、大津波警報・津波警報・注意報の発表状況など）を記述します。

なお、被害が生じた地震、大津波警報・津波警報・津波注意報を発表した地震、胆振・日高地方で観測した震度の大きい地震など、社会的に注目度の大きい地震を優先して記述します。

## (3) 断面図

「断面図」は、震央分布図（図2上）に表示された範囲の震源を鉛直断面上に投影し、震源の鉛直分布を示した図です（図2下）。ここでの震央分布図は、太平洋プレートの沈み込む様子がわかるように向きを変えて表示しています。また、前3ヶ月間の地震の記号を灰色で表示しています。

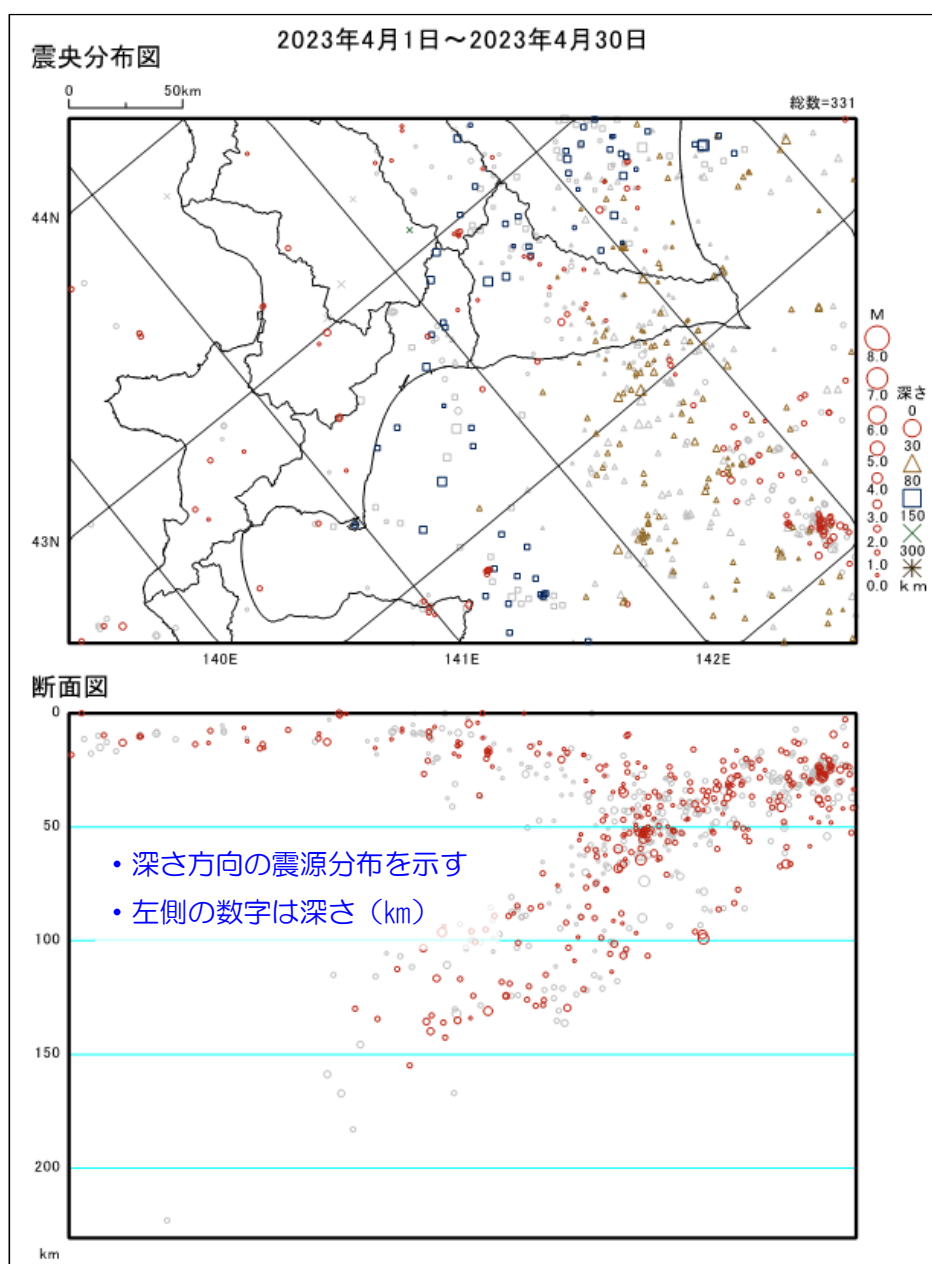


図2 断面図の例

#### (4) 北海道の地震活動図（震央分布図）

「北海道の地震活動図」は、北海道とその周辺で発生し震源が求まった地震の震央を地図上に記号で表示した図です（図3）。見方は「(1) 震央分布図」と同様です。

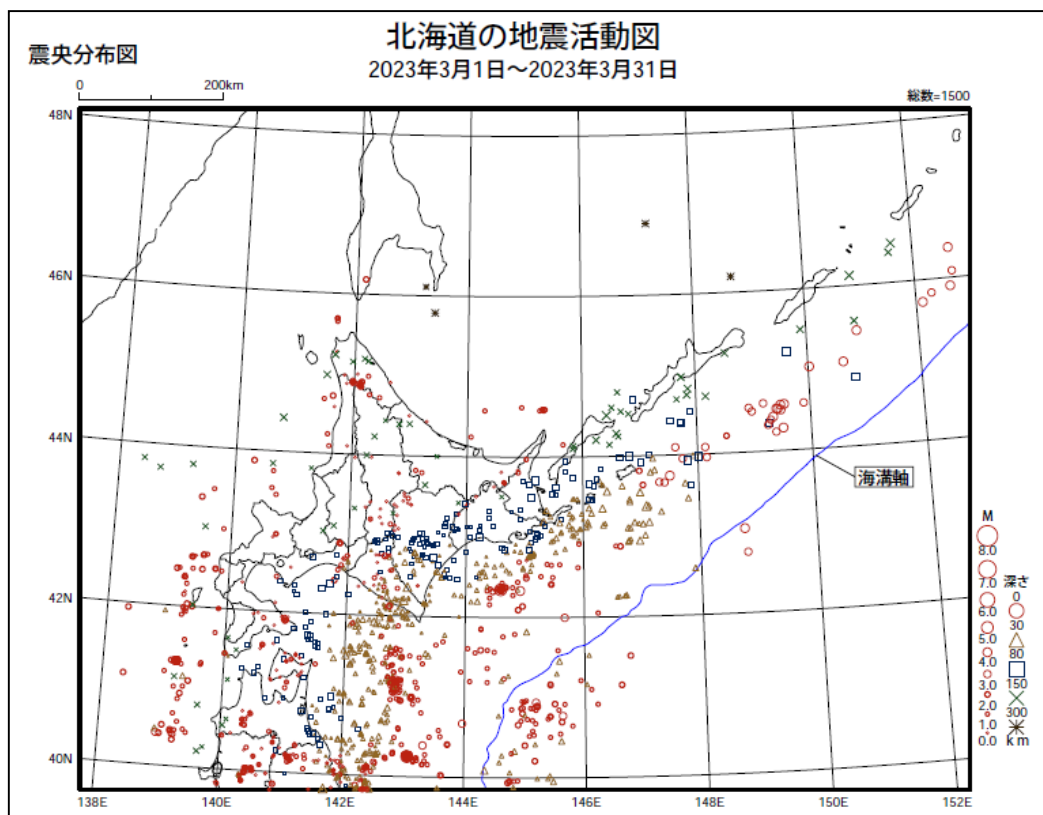


図3 北海道の震央分布図の例

#### (5) 胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表

胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震の一覧表です（表1）。ここには地震の発生日時、震央地名、震源の位置、M、胆振・日高地方の震度、その震度を観測した震度観測点名（\*は気象庁以外の震度観測点）及び計測震度（0.1単位の詳細な震度、小数点を省略して記載）を記載しています。計測震度と地震情報などで発表される震度（震度階級）との対応は表2のとおりです。

表1 胆振・日高地方で震度1以上を観測した地震の表の例

年月日 地方	時分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯(N)	東経(E)	深さ(km)	規模(M)
2023年 3月 7日 胆振地方 日高地方	07時24分 震度1 震度1	釧路沖 厚真町鹿沼(05) 安平町早来北進*(08) むかわ町穂別*(06) 新ひだか町静内山手町(08) 浦河町野深(06) 浦河町潮見(09) 浦河町築地*(07) 様似町栄町*(10) えりも町目黒*(13) えりも町えりも岬*(05)	42° 20.7' N	144° 35.5' E	20 km	M5.0
2023年 3月 10日 胆振地方	13時57分 震度2	胆振地方中東部 安平町追分柏が丘*(18)	42° 53.2' N	141° 50.8' E	8 km	M2.6
2023年 3月 11日 日高地方  胆振地方	05時12分 震度4 震度3 震度2  震度1  震度2 震度1	日高地方東部 浦河町潮見(36) 浦河町野深(27) 浦河町築地*(31) 平取町振内*(16) 新冠町北星町*(20) 新ひだか町静内山手町(24) 新ひだか町静内御園(15) 新ひだか町三石旭町*(24) 様似町栄町*(20) 日高地方日高町日高*(08) 日高地方日高町門別*(13) 平取町本町*(11) 新ひだか町静内農屋*(13) えりも町目黒*(12) えりも町えりも岬*(08) 安平町早来北進*(16) むかわ町松風*(16) むかわ町穂別*(18) 胆振伊達市梅本(05) 胆振伊達市大滝区本町*(10) 室蘭市寿町*(13) 苫小牧市末広町(06) 登別市桜木町*(09) 白老町大町(07) 厚真町鹿沼(14) 厚真町京町*(13) 安平町追分柏が丘*(13)	42° 11.9' N	142° 57.5' E	49 km	M4.8

表2 計測震度と震度階級の対応表

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

(6) 震度分布図

胆振・日高地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震の震度分布図です。なお、震度1以上を観測した地震が多い場合には、胆振・日高地方で観測した震度の大きい地震を優先して掲載します。

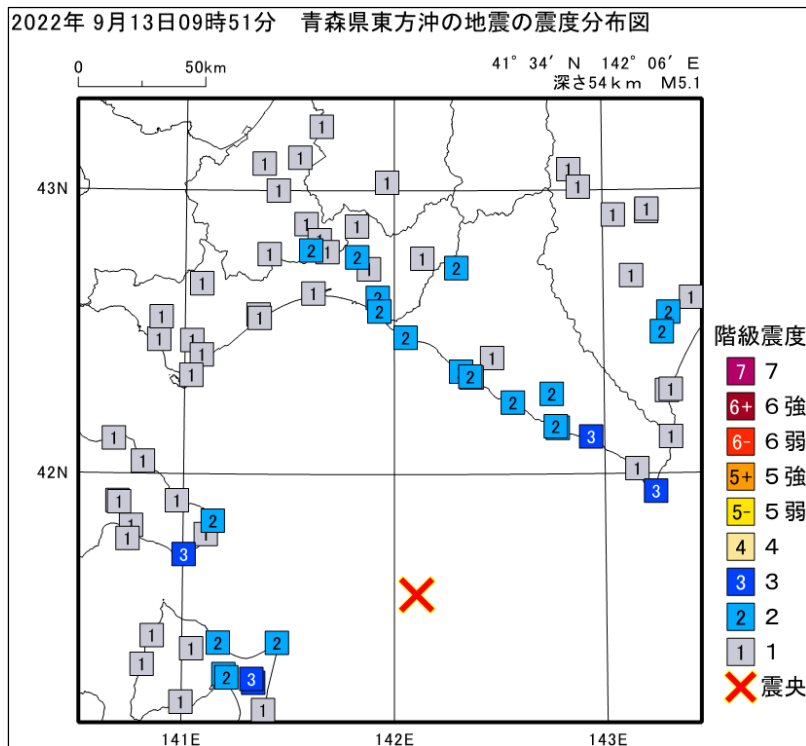


図4 震度分布図の例

## (7) 主な地震の解説

以下の基準②を満たす地震が発生した場合には、その地震について「主な地震の解説」のページの中で詳しく解説します。ここでは過去に付近で発生した地震についても取り上げ、その概要や被害などを記載しています。社会的に影響の大きい地震を調べる際などにご活用ください。

### 【基準②】

- ア 胆振・日高地方の沿岸に大津波警報・津波警報・津波注意報を発表
- イ 胆振・日高地方の震度観測点で震度4以上を観測
- ウ 上記以外で注目すべき地震活動

○ 「主な地震の解説」に掲載する図について

#### a. 震央分布図（図5）

基本的な見方は「(1) 震央分布図」のとおりですが、ここでは震源の深さに関係なく同じ形の記号を使用し、当該期間中の地震を赤で表示しています。多くは図5にある青枠のように領域を区切り、以降の図で領域内の地震について詳しく見られるようになっています。

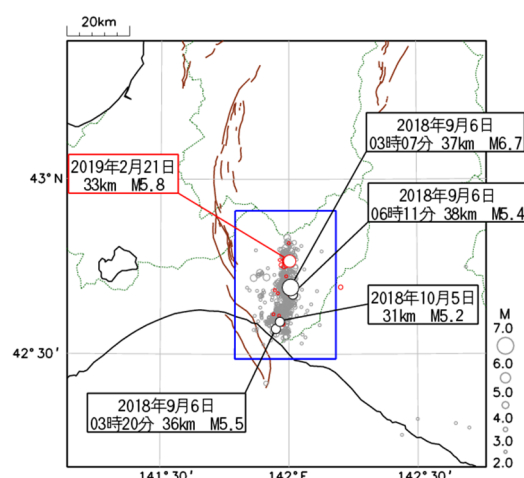


図5 震央分布図の例

#### b. 断面図（図6）

地震活動を理解するためには、震源の分布を詳しく観察することが必要です。断面図は震央分布図で設定した領域中の震源の鉛直方向の分布を見るための図で、震央分布図と併用することで震源の空間的な分布を把握することができます。

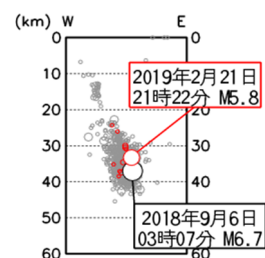


図6 断面図の例

#### c. 地震活動経過図及び回数積算図（図7）

いつ、どんな規模の地震が発生したかを把握するための図が地震活動経過図で、縦棒のついた記号で1つの地震の発生時間（横軸）とM（左縦軸）を示しています。回数積算図は地震総数の推移を見るためのグラフで、図中の折れ線がそれにあたり、右縦軸が地震総数の数値を表しています。

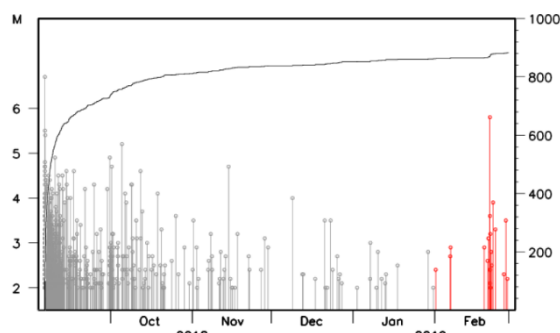


図7 地震活動経過図及び回数積算図の例

## (8) 防災メモ

「防災メモ」では、地震・津波の基礎知識や気象庁が発表する地震・津波に関する防災情報など、様々なテーマについて紹介しています。専門的な知識が必要ない内容となっておりますので、ぜひご一読ください。また、身近にいる方に防災知識を深めていただくため、職場やご家庭などで回覧するといった方法でもご活用いただけます。

## 3. 地震活動図で使われる用語について

### (1) 「震源」と「セントロイド」の違い

気象庁が普段発表している「震源」とは、地震の断層の破壊が始まった地点を示したものです。一方で、セントロイドの位置とは、地震の断層運動を1点で代表させた場合のその位置を表しています。これは気象庁が普段発表している「震源」とは意味が異なるもので、震源とセントロイドの位置は普通一致しません(図8)。地震観測網から離れた沖合海域などで発生した地震では、震源の深さを十分な精度で求められない場合があります、そのような地震を地震概況で取り上げる場合にセントロイドの深さを記載することがあります(データの一貫性を確保するため、震度1以上を観測した地震の表や震度分布図などでは通常の結果による震源の深さを記載します)。

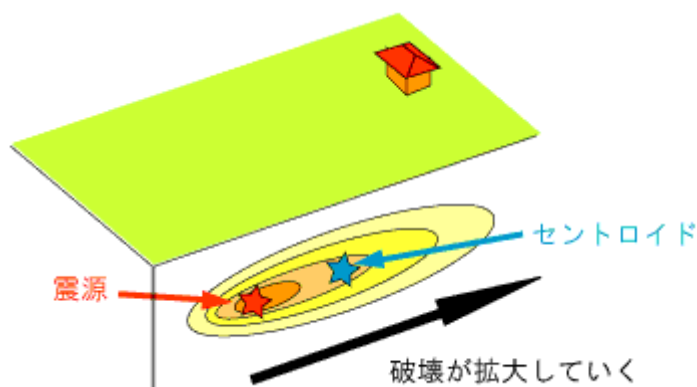


図8 震源とセントロイドの模式図

### (2) CMT 解

CMT (Centroid Moment Tensor) とは、観測された地震波形を最もよく説明する地震の位置と時刻(セントロイドの位置と時刻)、規模(モーメント・マグニチュード)、及び発震機構(メカニズム)を同時に決定する解析法により求められます。なお、計算には周期の長い地震波形を利用するため、地震の規模がある程度大きいものでないと解析できません。

これらの用語について、詳しくは以下のページ(気象庁ホームページ)をご覧ください。

[https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/mech/kaisetu/cmt\\_kaisetu.html](https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/mech/kaisetu/cmt_kaisetu.html)